



三十周年を迎えて ～坂村真民さんからのメッセージ～

2回も映画化され、原作の小説も人気のあった壺井栄（つばいさかえ）の「二十四の瞳」は、“十年をひと昔というならば、この物語の発端は今からふた昔半もまえのことになる。”との印象的な文章で始まっています。また、中国の格言にも“10年偉大なり、20年長るべし、30年歴史なる”とありますが、今年の七月で、皆様に支えられ私共の事務所は開設三十周年を迎えることができました。開設時の「志」を唯々非凡に継続しただけでしたが、クライアントの皆様に格別のご評価いただき今日に至っておりますこと、改めまして深く感謝申し上げます。振り返りますと、現在の社是として掲げております「お客様と共に成長する会計事務所」を目指した、あつという間の30年という感じでございます。

ところでこの節目に、私共を常に指導くださいました鍵山秀三郎様の「鍵山名言集」にある三種の言葉を選ばさせていただき、“じぞうもじ書家”の後藤夕深様に1枚1枚書いて戴いた作品を、記念の品として配らせていただきました。その折、鍵山秀三郎記念館様からお祝いの品として、坂村真民さんの書「念ずれば花ひらく」を贈っていただきました。数ある真民さんの詩の中でも「八字十音」のこの真言詩は覚えている方は多いのではないのでしょうか！



「念ずれば花ひらく」

念ずれば
花ひらく
若いとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしいつのころからか
となえるようになった
そうして死のたび
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

書：黒沼範子

「念ずれば、花ひらく」これは、ただ念じていれば、じっとお願いをしていれば、夢がかなうという意味ではありません。

この言葉の本当の意味は、何事も一生懸命に祈るように努力をすれば、自ずから道は開ける、夢や目標がかなう、という意味です。

また、「念」という字を分解すると「今」と「心」になります。これは「目の前にある事を一生懸命やる」ということです。言葉を換えて言えば「実践」することです。

（静岡県内の中学校HPより）



真民さんは平成18年97歳で永眠されましたが、この「真言碑」は全国各地、海外も含め800基を超えているといわれています。その中の一つ、真民さん90歳（鳩寿）の時に書いて戴いた、第496番の碑が我が家の庭に建立させてもらっていました。（原書は事務所内に額装して掲げております。）

そのようにご縁のありました「念ずれば花ひらく」の真言詩と、この節目に（鍵山相談役からの贈り物として）再び出逢えたことに感謝しつつ、更に前進いたしたいと願っているところです。

黒沼範子 